



第6回 Beyond AI 研究推進機構 国際シンポジウム

2026年2月10日(火) 14:30-18:30 ハイブリッド形式(会場+オンライン)

会 場

福武ラーニングセンター

東京大学 本郷キャンパス 情報学環・福武ホール 地下2階

オンライン

Zoomウェビナー

Beyond AIより新たな科学へ

東京大学とソフトバンクとの産学協創事業であるBeyond AI 連携事業は2020年に開始され、Beyond AI研究推進機構を研究拠点として、AIの基盤技術研究やその他の学術領域との融合によって、新たな学術分野の創出を目指す「基礎研究(中長期研究)」と、さまざまな社会課題・産業課題へのAIの活用を目的とする「応用研究(ハイサイクル研究)」の二つの領域で研究を推進してきました。中長期研究では既に多くの研究成果を生み出し、目標とする新学術分野も明確となりました。本シンポジウムでは、三つの新学術分野とその成果を取りまとめ、国際社会に発信いたします。

参加登録

右のいずれかより、
ご登録ください。

会場でのご参加お申込み ▶▶▶

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/0210BAonsite/reg/>



ウェビナーでのご参加お申込み ▶▶▶

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/0210BAwebinar/reg/>



※参加登録は定員になり次第、締め切らせていただきます。

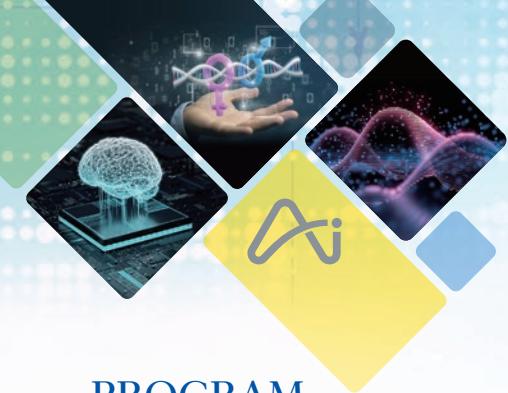
主催：東京大学 Beyond AI 研究推進機構

問い合わせ先：東京大学 Beyond AI 研究推進機構 事務局 E-mail: event@beyondai.jp



SoftBank

LINEヤフー



第6回Beyond AI 研究推進機構 国際シンポジウム

Beyond AIより新たな科学へ

PROGRAM

言語:英語・日本語(同時通訳あり)

14:30-14:45 開会挨拶

藤井 輝夫 東京大学 総長
宮川 潤一 ソフトバンク株式会社 代表取締役 社長執行役員 兼 CEO

14:45-14:55 Beyond AI 連携事業の紹介・趣旨説明

萩谷 昌己 東京大学 Beyond AI 研究推進機構 機構長

14:55-17:35 第1部 (英語)

セッション1 知能の基礎物理学の構築を目指して 14:55-15:45

齊藤 英治 東京大学 大学院工学系研究科 教授
田畠 仁 東京大学 大学院工学系研究科 教授
茂木健一郎 ソニーコンピュータサイエンス研究所 上級研究員／東京大学大学院 客員教授及び特任教授

セッション2 脳と人工知能の融合:新しい知性の創発へ 15:55-16:45

大木 研一 東京大学 大学院医学系研究科／国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 教授
池内与志穂 東京大学 生産技術研究所 教授
池谷 裕二 東京大学 大学院薬学系研究科 教授
長井 志江 東京大学 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 特任教授

セッション3 AIと社会:未来に向かう創意と責任 16:45-17:35

久野 愛 東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 准教授
Sang Wook Yi 漢陽大学 哲学研究科 教授
Celia Spoden ドイツ日本研究所 主任研究員
板津木綿子 東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 教授

17:45-18:25 第2部 パネルディスカッション (日本語)

モレーテー

萩谷 昌己 東京大学 Beyond AI 研究推進機構 機構長

パネリスト

(五十音順)

池谷 裕二 東京大学 大学院薬学系研究科 教授

大木 研一 東京大学 大学院医学系研究科／国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 教授

齊藤 英治 東京大学 大学院工学系研究科 教授

田畠 仁 東京大学 大学院工学系研究科 教授

原田 達也 東京大学 先端科学技術研究センター 教授

久野 愛 東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 准教授

18:25-18:30 閉会挨拶

萩谷 昌己 東京大学 Beyond AI 研究推進機構 機構長

司 会

大木 美加 東京大学 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 特任研究員 | URA

第6回Beyond AI 研究推進機構 国際シンポジウム



開会挨拶

藤井 輝夫 東京大学 総長

1993年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了・博士(工学)、同生産技術研究所や理化学研究所での勤務を経て、2007年東京大学生産技術研究所教授、2015年同所長。2018年東京大学大学執行役・副学長、2019年同理事・副学長(財務、社会連携・産学官協創担当)を務め、2021年より同総長に就任。2025年6月より国立大学協会会長。専門分野は応用マイクロ流体システム、海中工学。



開会挨拶

宮川 潤一 ソフトバンク株式会社 代表取締役 社長執行役員 兼 CEO

1991年 株式会社ももたろうインターネット 代表取締役社長

2000年 名古屋めたりく通信株式会社 代表取締役社長(現ソフトバンク株式会社)

2003年 ソフトバンクBB株式会社 取締役、2007年ソフトバンクモバイル株式会社 取締役専務執行役員 兼 CTOを経て、2021年より現職。

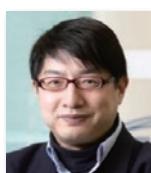
その他、米Sprint Corporation Technical Chief Operating Officerを務めた経験を持つほか、現在、Aホールディングス(株) 代表取締役、PayPay(株) 取締役を兼任。



Beyond AI 連携事業の紹介・趣旨説明／モダレーター／閉会挨拶

萩谷 昌己 東京大学 Beyond AI研究推進機構 機構長

東京大学理学部情報科学科博士課程修了後、京都大学数理解析研究所を経て、1988年博士(理学)取得。2022年3月まで東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻教授。2022年6月名誉教授。プログラミング言語の理論、ソフトウェアテスト、形式的検証などソフトウェア科学・工学に加えて、DNAコンピューティングを中心に自然計算(自然現象を活用した計算)の研究を行う。2021年4月よりBeyond AI 研究推進機構機構長。



セッション1／パネリスト

齊藤 英治 東京大学 大学院工学系研究科 教授

2001年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。専門は、量子物理学・物性物理学。基礎物理法則の歴史に新たな1ページを刻むスピinn量子科学における世界的リーダー。2018年より東京大学大学院工学系研究科教授。2020年よりBeyond AI 研究推進機構の基礎研究「物理とAIの融合」プロジェクトリーダーを務める。研究テーマは、「物理とAIの融合」、「AIを活用した物質の量子的性質の解読」。



セッション1／パネリスト

田畠 仁 東京大学 大学院工学系研究科 教授

京都大学卒。博士(理学)。昭和63年川崎重工業(株)技術研究所入社。平成6年大阪大学助手、助教授/准教授、教授を経て、平成18年より東京大学大学院工学系研究科教授。レーザMBE法を用いた機能性酸化物薄膜・人工格子の研究。酸化物エレクトロニクスおよびバイオエレクトロニクスの融合研究に従事。第4回日本学術振興会賞(平成20年)、第35回応用物理学会優秀論文賞(平成25年)、第8回応用物理学会フェロー表彰(平成26年)等受賞。



セッション1

茂木 健一郎 ソニーコンピュータサイエンス研究所 上級研究員／東京大学大学院 客員教授及び特任教授

脳活動からの意識の起源の究明に取り組む。『脳と仮想』(新潮社)で第4回小林秀雄賞を受賞。『今、ここからすべての場所へ』(筑摩書房)で第12回桑原武夫学芸賞を受賞。IKIGAI, Nagomi, Stoicismに関する英語の著作がある。



セッション2／パネリスト

大木 研一 東京大学 大学院医学系研究科／国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 教授

1996年東京大学医学部卒業。2000年同大学院医学系研究科博士課程修了。博士(医学)。

東京大学助手、ハーバード大学医学部リサーチフェロー、同インストラクターを経て、2010年より九州大学大学院医学研究院教授、2016年より東京大学大学院医学系研究科教授を務める。

大木教授は、脳細胞機能イメージングの第一人者。数千の神経細胞の活動を計測する技術を世界に先駆け開発。これを用い脳情報を人工知能に写し取る技術を開発。脳情報処理への理解を深め、脳型の次世代人工知能開発を目指す。



セッション2

池内 与志穂 東京大学 生産技術研究所 教授

ヒトのiPS細胞から神経細胞や組織(オルガノイド)をつくることを通じて、神経系が出来上がる仕組みや、脳が機能するメカニズムなどを理解することを目指している。東京大学、ハーバード大学医学部、ワシントン大学(セントルイス)医学部での研究活動の後、2014年より神経科学と組織工学を融合した研究を行っている。Beyond AI研究推進機構では脳オルガノイドの応用について研究を行っている。

第6回Beyond AI 研究推進機構 国際シンポジウム



セッション2／パネリスト

池谷 裕二 東京大学 大学院薬学系研究科 教授

1970年生まれ。1998年に東京大学にて薬学博士号を取得。2002～2005年にコロンビア大学(米ニューヨーク)に留学をはさみ、2014年より東京大学薬学部教授。専門分野は神経生理学。脳の健康と能力開発について探究している。2018年よりERATO脳AI融合プロジェクトの代表に就き、AIチップの脳移植によって新たな知能の開拓を目指している。文部科学大臣表彰若手科学者賞(2008年)、日本学術振興会賞(2013年)、日本学士院学術奨励賞(2013年)などを受賞。



セッション2

長井 志江 東京大学 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 特任教授

2004年大阪大学、博士(工学)。情報通信研究機構(NICT)専攻研究員、ビーレフェルト大学ポスドク研究員、大阪大学特任准教授、NICT主任研究員を経て、2019年より東京大学特任教授。構成的アプローチから人間の社会的認知機能の発達原理を探る、認知発達口ボティクス研究に従事。認知発達の時間的連続性と個人の多様性が、脳の予測情報処理に基づいて統一的に説明できることを提案。35 Women in Robotics Engineering and Science (2022)、Forbes JAPAN Women In Tech 30 (2024) などに選出。



セッション3／パネリスト

久野 愛 東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 准教授

東京大学大学院情報学環准教授、東京大学卓越研究員。感覚史・技術史・経営史が専門で、特にアメリカ合衆国の20世紀史に焦点を当てた研究を行っている。デラウエア大学歴史学部でPhD取得後、ハーバードビジネススクールにてポストドクトラルフェロー(2016-2017年)、京都大学経済学研究科にて講師(2017年-2021年)を務めた。近著に『視覚化する味覚—食を彩る資本主義』(岩波書店、2021年)。また、『Visualizing Taste: How Business Changed the Look of What You Eat』(ハーバード大学出版局、2019年)は、ハグリー・プライズおよび清水博賞を受賞。現在は、感覚やエステティクスと技術・AIに関する歴史研究に取り組んでいる。



セッション3

Sang Wook Yi 漢陽大学 哲学研究科 教授

漢陽大学哲学研究科教授。ソウル大学で物理学学位を取得後、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで科学哲学の博士号を取得。漢陽大学にて科学技術の倫理・法・政策センターを創設。研究領域はAI倫理、合成生物学、ポストヒューマニズムなど多岐にわたる。韓国政府の複数の技術評価委員会の委員長のほか、韓国科学哲学会の会長やユネスコの科学的知識と技術の倫理に関する世界委員会(COMEST)の副議長を歴任。また、2021年のユネスコ「AI倫理に関する勧告」を起草した特別専門家会にも参加。



セッション3

Celia Spoden ドイツ日本研究所 主任研究員

ドイツ日本研究所(DIJ)主任研究員。文化横断的な視点から、科学技術社会論、医療人類学、生命倫理学を架橋する研究に取り組んでいる。これまでの研究では、医療における意思決定、終末期ケア、デジタル技術の社会的影響に関するエスノグラフィーを行ってきた。DIJでは、デジタル・トランスフォーメーションの研究クラスターに所属し、人口動態の変化や労働力不足の文脈から、日本のイノベーション政策およびロボット戦略を分析している。また、障害者や慢性疾患を抱えるなど社会的に脆弱な立場にある人々に焦点を当て、アバターロボットが社会にもたらす可能性とリスクについて研究を進めている。



セッション3

板津 木綿子 東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 教授

東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授。デジタルメディア技術と社会の接点、日常生活の営みにおけるメディア、レジャーと権力との関係について文化史社会史観点から研究。とりわけ社会的マイノリティの包摂、メディアの人種・エスニシティ表象など文化政治が研究テーマ。人工知能の活用によって起こりうる排除や差別、そして同技術によって可能となる包摂についても関心を持っている。またアジア太平洋地域からAI技術開発やガバナンスに関する地政学的な分析にも関心を持っている。フルブライト奨学生として米国南カリフォルニア大学に留学し、歴史学の博士号取得。



パネリスト

原田 達也 東京大学 先端科学技術研究センター 教授

2001年3月に東京大学で博士(工学)を取得。2013年4月に東京大学大学院情報理工学系研究科教授、2019年9月より東京大学先端科学技術研究センター教授。理研AIPチームリーダー、国立情報学研究所医療ビッグデータ研究センター副センター長などを兼任。研究テーマはコンピュータビジョン、機械学習、知能ロボット。



司会

大木 美加 東京大学 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 特任研究員 | URA

早稲田大学より修士(工学)、筑波大学より博士(工学)を取得。産業技術総合研究所、筑波大学システム情報系を経て、現在は筑波大学サイバニクス研究センターの客員研究員を兼務。2014年よりJST CRESTの助成によるFUTUREGYMプロジェクトに参画し、複合現実感(MR)を活用したインクルーシブ教育・療育環境の創出に取り組む。ヒューマンコンピュータインタラクション、AR/MR、支援技術に関する専門性をIRCNにおける研究マネジメントに活かしている。



The 6th International Symposium of the Institute for AI and Beyond

February 10 (Tue.), 2026 2:30pm-6:30pm (JST)

Event Format: Hybrid (Onsite+Online)

Onsite Venue

FUKUTAKE Learning Theater

FUKUTAKE HALL B2F, Interfaculty Initiative in Information Studies,
The University of Tokyo

Online

Zoom Webinar

Toward New Science with AI and Beyond

The Beyond AI Joint Project, a collaborative initiative between the University of Tokyo and SoftBank, was launched in 2020. Centered around the Institute for AI and Beyond as its research hub, the project has promoted research in two domains: Basic Research (Mid- and Long-term Research), which aims to create new academic fields through the integration of the fundamental technologies of artificial intelligence (AI) and other scientific disciplines, and Applied Research (High-cycle Research), which seeks to utilize AI to address various social and industrial challenges.

The Mid- and Long-term Research has already produced numerous research achievements, and the targeted new academic fields have now become clearly defined. In this symposium, we will present and disseminate to the international community the outcomes of these efforts, focusing on three newly emerging academic fields and their key research results.

Register
via either link
to the right.

For onsite participation >>>

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/0210BAonsite/reg/>



For webinar participation >>>

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/0210BAwebinar/reg/>



※Registration will close when the number of participants reaches the capacity.

Organized by Institute for AI and Beyond, The University of Tokyo

Contact: Office of the Institute for AI and Beyond, The University of Tokyo E-mail: event@beyondai.jp



The 6th International Symposium of the Institute for AI and Beyond

Toward New Science with AI and Beyond

PROGRAM

Language: English / Japanese (Simultaneous interpretation offered)

14:30-14:45 Opening Remarks

Teruo Fujii President, The University of Tokyo

Junichi Miyakawa President and CEO of SoftBank Corp.

14:45-14:55 Introduction of The Beyond AI Joint Project·Purpose of the Event

Masami Hagiya Director, Institute for AI and Beyond, The University of Tokyo

14:55-17:35 1st Session (English)

Session 1 Toward building fundamental physics of intelligence 14:55-15:45

Eiji Saitoh Professor, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo

Hitoshi Tabata Professor, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo

Kenichiro Mogi Senior Researcher, Sony Computer Science Laboratories / Visiting Professor, The University of Tokyo

Session 2 Fusion of the Brain and Artificial Intelligence : Toward the Emergence of New Intelligence 15:55-16:45

Kenichi Ohki Professor, Graduate School of Medicine / International Research Center for Neurointelligence (WPI-IRCN),
The University of Tokyo

Yoshiho Ikeuchi Professor, Institute of Industrial Science, The University of Tokyo

Yuji Ikegaya Professor, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, The University of Tokyo

Yukie Nagai Project Professor, International Research Center for Neurointelligence (WPI-IRCN), The University of Tokyo

Session 3 AI and Society : Imagination and responsibility for the future 16:45-17:35

Ai Hisano Associate Professor, The Interfaculty Initiative in Information Studies (III) and the Graduate School of
Interdisciplinary Information Studies (GSII), The University of Tokyo

Sang Wook Yi Professor, Department of Philosophy, Hanyang University

Celia Spoden Principal Researcher, German Institute for Japanese Studies

Yuko Itatsu Professor, The Interfaculty Initiative in Information Studies (III) and the Graduate School of
Interdisciplinary Information Studies (GSII), The University of Tokyo

17:45-18:25 2nd Session Panel Discussion (Japanese)

Moderator

Masami Hagiya Director, Institute for AI and Beyond, The University of Tokyo

Panelists
(Japanese order)

Yuji Ikegaya Professor, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, The University of Tokyo

Kenichi Ohki Professor, Graduate School of Medicine / International Research Center for Neurointelligence (WPI-IRCN),
The University of Tokyo

Eiji Saitoh Professor, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo

Hitoshi Tabata Professor, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo

Tatsuya Harada Professor, Research Center for Advanced Science and Technology, The University of Tokyo

Ai Hisano Associate Professor, The Interfaculty Initiative in Information Studies (III) and the Graduate School of
Interdisciplinary Information Studies (GSII), The University of Tokyo

18:25-18:30 Closing Remarks

Masami Hagiya Director, Institute for AI and Beyond, The University of Tokyo

MC

Mika Oki Project Researcher | URA, The International Research Center for Neurointelligence (WPI-IRCN), The University of Tokyo

The 6th International Symposium of the Institute for AI and Beyond



Opening Remarks

Teruo Fujii President, The University of Tokyo

Dr. Teruo Fujii is the 31st President of the University of Tokyo. Prior to taking the President's office in April 2021, he was Executive Vice President in charge of finance and external relations for the university. He also served as the Director General of the Institute of Industrial Sciences (IIS) of the university from 2015 to 2018. He received his Ph.D. in engineering from UTokyo in 1993 and held research positions at IIS and RIKEN prior to becoming a professor of IIS in 2007. He was appointed as President of the Japan Association of National Universities in June 2025. His research specializes in applied microfluidics systems and underwater technology.



Opening Remarks

Junichi Miyakawa President and CEO of SoftBank Corp.

Junichi Miyakawa is President and CEO at SoftBank Corp. (since 2021), and also serves as Representative Director of A Holdings Corporation and Director of PayPay Corporation. Miyakawa's past positions include Technical Chief Operating Officer at US-based Sprint Corporation (2014), Director, Executive Vice President and CTO of SoftBank Mobile Corp. (now SoftBank Corp.) (2007), Director of SoftBank BB Corp. (now SoftBank Corp.) (2003) and Representative Director and President of Nagoya Metallic Communications Corp. (now SoftBank Corp.) (2000). Prior to these positions, in 1991 he became Representative Director & President of KK Momotaro Internet.



Introduction of The Beyond AI Joint Project·Purpose of the Event

Masami Hagiya Director, Institute for AI and Beyond, The University of Tokyo

After receiving M.Sc. from the University of Tokyo, Masami Hagiya worked for Research Institute for Mathematical Sciences, Kyoto University, and received a Doctor of Science in 1988. He was a professor at Department of Computer Science, Graduate School of Information Science and Technology, the University of Tokyo, from 2001 to 2022. He has been working in the fields of software science and engineering, including theory of programming languages, software testing and formal verification. He is also working in the fields of natural computing (computing by natural phenomena), including DNA computing. He was appointed as the Director of Institute for AI and Beyond in April 2021.



Session 1 / Panelist

Eiji Saitoh Professor, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo

Ph.D. in Applied Physics from the Graduate School of Engineering, the University of Tokyo in 2001. Eiji Saitoh specializes in the field of quantum condensed matter physics. He is a global leader in the field of electron spin science and spintronics. Since 2018, he has been a professor at the Graduate School of Engineering, the University of Tokyo and engaged in the Basic Research "Integrating Physics and AI" of the Institute for AI and Beyond as a project research leader since 2020. His research interests include "Integrating Physics and AI" and "Analysis of materials' quantum properties using AI".



Session 1 / Panelist

Hitoshi Tabata Professor, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo

Graduated from Kyoto University in 1988. He worked at the Technical Institute of Kawasaki Heavy Industries from 1988 to 1994 and moved to Osaka University, The Institute of Scientific and Industrial Research, as a Research Associate. He was a research associate and associate professor at Osaka University from 1994 to 2002. He was a professor of Nano-science and Nano-technology Center at Osaka University from 2002 to 2006. After 2006, He is a professor at The University of Tokyo. He studies functional oxide thin films and artificial lattices using a laser MBE technique. He is engaged in fusion research of oxide electronics and bioelectronics. He received a Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) Prize in 2008. He was awarded as a fellow of the Japan Society of Applied Physics in 2014.



Session 1

Kenichiro Mogi Senior Researcher, Sony Computer Science Laboratories / Visiting Professor, The University of Tokyo

Ken Mogi is a neuroscientist, writer, and broadcaster based in Tokyo, interested in the mind-brain problem. He is the author of A little Book of Ikigai (1997), The Way of Nagomi (2022), and Think like a Stoic (2025).



Session 2 / Panelist

Kenichi Ohki Professor, Graduate School of Medicine / International Research Center for Neurointelligence (WPI-IRCN), The University of Tokyo

Graduated from Faculty of Medicine, the University of Tokyo in 1996. PhD in Medicine from the Graduate School of Medicine, the University of Tokyo in 2000.

After working as an assistant professor at the University of Tokyo, a research fellow and an instructor at Harvard Medical School, he became a professor at Graduate School of Medical Sciences, the Kyushu University in 2010 and a professor at Graduate School of Medicine, the University of Tokyo in 2016.

Professor Ohki is a leading expert on functional imaging of neurons in the brain. He is a global pioneer in technology used to measure the activities of thousands of neurons, and he uses this technology to reconstruct brain information in AI. Ohki pursues a greater understanding of brain information processing in order to develop next-generation AI that functions similarly to the brain.



Session 2

Yoshiho Ikeuchi Professor, Institute of Industrial Science, The University of Tokyo

Yoshiho Ikeuchi aims to elucidate how the nervous system forms and how the brain functions by creating neurons and three-dimensional tissues (organoids) from human induced pluripotent stem cells. Following research appointments at The University of Tokyo, Harvard Medical School, and Washington University School of Medicine in St. Louis, he has pursued an integrated research program at the intersection of neuroscience and tissue engineering since 2014 in Tokyo. At Institute for AI and Beyond, he investigates applications of brain organoids—including platforms for disease modeling, human-relevant physiology, and emerging bio-computing concepts—to translate fundamental insights into practical technologies.

The 6th International Symposium of the Institute for AI and Beyond



Session 2 / Panelist

Yuji Ikegaya Professor, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, The University of Tokyo

As a professor at the Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Dr Ikegaya specializes in neuropharmacology and neurophysiology, with expertise in neuronal plasticity and brain health. Since earning his Ph.D. in Pharmaceutical Sciences in 1998, he has focused on fundamental principles governing neuronal microcircuit function through multi-neuron recordings and computational analyses. His research has been featured in journals, including *Science* (2004, 2011, 2012, 2018, 2019, and 2024) and *Nature Neuroscience* (2014). Since 2018, Dr. Ikegaya has directed the ERATO Brain-AI Hybrid Project, which aims to integrate AI chips into neural systems, expanding the conceptual and biological boundaries of intelligence.



Session 2

Yukie Nagai Project Professor, International Research Center for Neurointelligence (WPI-IRCN), The University of Tokyo

Yukie Nagai earned her Ph.D. in Engineering from Osaka University in 2004, after which she worked at the National Institute of Information and Communications Technology, Bielefeld University, and Osaka University. Since 2019, she has been leading the Cognitive Developmental Robotics Lab at the University of Tokyo. Her research encompasses cognitive developmental robotics, computational neuroscience, and assistive technologies for developmental disorders. Dr. Nagai employs computational methods to investigate the underlying neural mechanisms involved in social cognitive development. In acknowledgment of her work, she received the titles of "35 Women in Robotics Engineering and Science" in 2022 and "Forbes JAPAN Women In Tech 30" in 2024, among other recognitions.



Session 3 / Panelist

Ai Hisano Associate Professor, The Interfaculty Initiative in Information Studies (III) and the Graduate School of Interdisciplinary Information Studies (GSII), The University of Tokyo

Ai Hisano is Associate Professor at the Graduate School of Interdisciplinary Information Studies at the University of Tokyo. Her research focuses on the history of the senses, the history of technology, and business history with particular focus on the twentieth-century U.S. history. Her recent publication includes *Shikakuka suru Mikaku: Shoku wo Irodoru Shihonshugi* [Visualizing Taste: Capitalism and a Color of Food] (Iwanami-shoten, 2021) and *Visualizing Taste: How Business Changed the Look of What You Eat* (Harvard University Press, 2019). *Visualizing Taste* received the 2020 Hagley Prize in Business History from the Business History Conference and the 2020 Shimizu Hiroshi Book Award from the Japanese Association for American Studies. She holds a PhD in History from the Hagley Program in the History of Capitalism, Technology, and Culture at the University of Delaware. She served as a Newcomen Postdoctoral Fellow in Business History at Harvard Business School (2016–17) and taught at the Graduate School of Economics at Kyoto University (2017–2021).



Session 3

Sang Wook Yi Professor, Department of Philosophy, Hanyang University

Sang Wook Yi is Professor at the Department of Philosophy at Hanyang University. He holds physics degrees from Seoul National University and a PhD in philosophy of science from LSE, where his thesis won the Robert McKenzie Prize. He founded HY Center for Ethics, Law and Policy of Science and Technology. His research spans AI ethics, synthetic biology, and posthumanism. He has chaired several South Korean government Technology Assessment committees and served as the president of the Korean Society for Philosophy of Science. He is a member of UNESCO's COMEST, where he has been a vice-chair and rapporteur. He also served as rapporteur for the Ad-hoc experts group which drafted UNESCO Recommendation on AI Ethics in 2021.



Session 3

Celia Spoden Principal Researcher, German Institute for Japanese Studies

Celia Spoden is a Principal Researcher at the German Institute for Japanese Studies (DIJ) in Tokyo. Her research bridges science and technology studies, medical anthropology, and bioethics from a cross-cultural perspective. She has conducted ethnographic research on medical decision-making, end-of-life care, and the social impact of digital technologies. At the DIJ, she works within the Digital Transformation Cluster, analyzing Japan's innovation policy and robotics strategy in the context of demographic change and labor shortages. In her current project, Spoden examines the opportunities and risks that avatar robots present for society, focusing on vulnerable populations such as individuals with disabilities and chronic illnesses.



Session 3

Yuko Itatsu Professor, The Interfaculty Initiative in Information Studies (III) and the Graduate School of Interdisciplinary Information Studies (GSII), The University of Tokyo

Yuko Itatsu is Professor in the Interfaculty Initiative in Information Studies, the Graduate School of Interdisciplinary Information Studies, University of Tokyo. She is a social and cultural historian specializing in quotidian practices of media, leisure and power. She is particularly interested in the cultural politics of media representation of gender, race and ethnicity and its impact on social minorities. Through the application of artificial intelligence, she is concerned of its implications in inadvertently exacerbating discrimination and exclusion, but is also hopeful for being an assistive tool for social inclusion. She is also interested in the geopolitics of AI development and governance observed from the Asia Pacific region. She studied at the University of Southern California as a Fulbright Scholar and received her Ph.D. in History.



Panelist

Tatsuya Harada Professor, Research Center for Advanced Science and Technology, The University of Tokyo

Tatsuya Harada is a Professor in the Research Center for Advanced Science and Technology at the University of Tokyo. His research interests center on visual recognition, machine learning, and intelligent robot. He received his Ph.D. from the University of Tokyo in 2001. He is also a team leader at RIKEN AIP and a vice director of Research Center for Medical Bigdata at National Institute of Informatics, Japan.



MC

Mika Oki Project Researcher | URA, The International Research Center for Neurointelligence (WPI-IRCN), The University of Tokyo

Mika Oki holds a B.S. and M.E. in engineering from Waseda University and a Ph.D. from the University of Tsukuba. Her experience includes semiconductor engineering and research positions at AIST and the Institute of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba. She is also a visiting researcher at the Center for Cybernics Research, University of Tsukuba. Since 2014, she has contributed to the FUTUREGYM project funded by JST CREST and works across disciplines to investigate Mixed Reality (MR)-mediated social interaction and to design feedback systems that support inclusive educational settings. Her research interests include Human-Computer Interaction, AR/MR, and assistive technologies, which she applies to research management at IRCN.